

## IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第54回会合 発言録

2024年9月24日

【加藤】 皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、それでは、第54回目の国内活発化チーム会合を始めたいと思います。

それでは、いつものとおりのアジェンダで、まず、日本政府から最近の状況報告ということで、今日は総務省の方、どなたが参加いただいていますでしょうか。片柳様が名前はすぐ出てきますが。

【片柳】 お世話になっております。総務省の片柳と申します。

特にこちらのほうからは報告等ございません。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。GDCについてコメントとか何か特にございませんか。

【片柳】 そうですね。本当は今日、飯田が参加できればよかったんですけども、飯田も参加できないというところで、またの機会にお話しさせていただければと思います。

【加藤】 そうですね。時間で言うと一昨日、最終版が採択されたというようなニュースが流れていたと思うんですが、また機会がありましたらぜひ、どう読むのか、どう評価するのか含めてコメントいただければと思います。

【片柳】 よろしく申し上げます。

【加藤】 皆さん、よろしいですか。前村さん、何かしゃべりたいような枠が出ましたけれども。

【前村】 違います。

【加藤】 違いますか。どなたか、大丈夫ですか。

【山崎】 山崎ですけれども、飯田さんからは先週の時点では御参加いただけると伺っていたんですが、ちょっと今日急用ができて御参加いただけなくなってしまったと御連絡があったので、総務省からの御報告は残念ながらさそうという感じですね。GDCについては、後ほど時間があつたら私か前村かで、完全にはいきませんが、多少カバーしたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。ぜひよろしく申し上げます。何かさっきちらっとGDCの翻訳のようなどころが見えていたので、ぜひよろしくお願ひいたします。

それでは、引き続き、MAGの御報告ということで、河内さん、お願いできます

でしょうか。

【河内】 MAGなんですけれども、リモート会議があしたの夜行われることになってしまっていて、特にMAG会議でのアップデートというのは今回ないんですけれども、MAGが企画するメインセッション4つはそれぞれグループをつくって、スピーカーとかモデレーターを選定する段階になってきていて、今週中は難しくても来月早々ぐらいにはもう最終的なスピーカーとかモデレーターを含めた案が確定すると思います。

1つ、Internet We Wantに関するメインセッションがマルチステークホルダーに関する……、あれ、聞こえていますか。(音声途絶)

【加藤】 ちょっと立ち上がってこないのか、どうでしょうか。もしできるのであれば、山崎さん、NRIの前日の御報告とその後のメールのやり取り、お願いしてもよろしいでしょうか。

【山崎】 それでは、河内さんが戻られるまで。

【加藤】 そうですね、バックアップの間。

【山崎】 NRI会合の様子の報告をします。

今月は16日に開催されて、加藤さんも河内さんも、我々3人とも参加したんですけれども、加藤さんから日本で国内IGFをやるよということはチャットで参加者に伝えられました。主な議題は、NRIのメインセッションのスピーカーについてということで、誰にするかというのを具体的に選定したというのが主な会議の内容となります。大体ここに書いてあるように、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、中東と北アフリカ、北米で候補者が出ましたので、この中から複数いるところとかもありますので、絞って招待するということと、オンサイト及びオンラインのモデレーターで、報告する人、ラポーターも検討して決めるということで、今月末までには決めたいということになっております。

会議後にIGF事務局からメールが出まして、候補と状況がこういった形で答えられております。

これはさらにおまけです。今のはNRIメインセッションの話でしたけれども、インクルージョンのほう、3つ、NRIコラボラティブセッションで3つあるんですけれども、そのうちの1つについては私が担当なので、そちらの会議にも出ているんです。こちらも順調に進んできているということです。こちらは詳細は控えますけれども、赤で書いてあるのが現在の状況で、まだ反応がないとか、もう確約済みとか、人によってちょっといろいろですけれども、こういった形で候補者が決まりつつあるという状況です。

私からはそんなところですか。加藤さん、何か補足ございますか。

【加藤】 ありがとうございます。いや、特にあれですけども、実はNRIリエゾンの我々3人には、このメインセッションについては、マルチステークホルダーの参加をNRIの観点から非常に重要であるということを含んで議論しようというセッションなんですけれども、アジアからすぐには名前が出なかったようなんですね。それで、誰か日本からいないかなというふうに言った矢先に、このAmritaという、よく御存じだと思いますけれども、今APriGFのMAGに相当するステアリングコミューティーのチェアをやっているインド人の女性です。彼女の名前が出てきて、彼女はアジアの中では非常に活発に活動しているということで、賛同が多かったという印象でした。

それから、付け加える点で言いますと、これも以前に御報告しているんですけども、私もNRIの中でニューテクノロジー、Emerging Technologyに関するコラボティブセッションの担当をしておりますけれども、それももうスピーカーが各国出ていまして、アジアからは中国系の方とか、そういう方も出ています。今すぐに出す用意がなかったんですけども、スピーカーは決まっているということでございます。

河内さん、入られましたか。入ってきましたね。

【河内】 すみません。別のパソコンから入ったら、Zoomを更新しろとかいってなかなか入れず、すみません、遅くなりました。

【加藤】 いえいえ。先にNRIのほうを簡単に報告しまして、山崎さんからだったんですが、河内さんからも何か追加が、もし聞かれていますのであれば。河内さんが担当しているNRIのコラボティブセッションについても何か。多分同じような状況で、もう大体スピーカーも決まったという段階だと思うんですけども、いかがでしょうか。

【河内】 そうですね。もう8月の末にmisinformation、disinformationの会合はあって、かなり前にいろいろもう内容とかについては決めていたんですけども、もう一度確認した上で、スピーカーも確認して、ほぼほぼそちらはもう決まっているという理解です。

【加藤】 ありがとうございます。NRIからは大体そういう状況です。何か御質問ありますでしょうか。

もしなければ、ちょっと戻って、先ほど河内さんからはInternet We Wantに関するメインセッションについてというところでネットが切れちゃったように思いますけれども、続けていただけますでしょうか。

【河内】 はい。それで、NRIのメインセッションと、DC、Dynamic Coalitionsのメインセッションも同じようなマルチステークホルダーをテーマにしたセッションになるということで、その3つがテーマがかぶっているんじゃないか、もしかぶっているのであれば、連携を取って、どういう内容をどのセッションではディスカッションするのかとか、どういうスピーカーが出るのかとか、そこら辺を事前に打合せしておいたほうがいいんじゃないかな

いかという話で、それを9月の初め頃にDCの担当者、名前を忘れちゃいましたね、担当者  
と、それからNRIの担当者として事務局のAnjaがInternet We Wantのメインセッションの  
グループに参加して話をしました。結果的には、テーマは簡単に言ってしまうとマルチス  
テークホルダーの重要性とかそういうところなんですけれども、決して中身は同じことを  
話すわけではなくて、それぞれ違うことを話すので、決してかぶるわけではないと。ただ、  
どうい話をするのかというのは事前によく情報交換をしておきましょうということにな  
っています。

あしたまたMAGの会議があるので、その話になると思うので、また何かあれば  
報告させていただければと思います。

以上です。

**【加藤】** ありがとうございます。今の点は、NRIのほうも、前回の会議では内容につい  
て詳しくはやらなかったんですが、マルチステークホルダーに関する議論をNRIの観点か  
らやるというふうに私なんかも理解していて、そういう意味では、特に途上国等の立場か  
らマルチステークホルダーというのはどう重要かというところに多分力点が置かれるのか  
など。そういう意味で、途上国と言っちゃっていいのかあれですけども、インド代表で  
APriIGFの中心になっているAmritaがアジア代表で出られるのがいいのかなというふう  
に我々は思ったんですけども、恐らくメインセッションとかDynamic Coalitionsでも、そ  
れぞれそういう違った立場のほうから彼らとしてマルチステークホルダーをどう考える  
のかという議論があるのかなというふうに推定はしていますけれども、河内さん、どうで  
すか。そういうイメージでいいですよ。

**【河内】** 山崎さんに、3つのセッションの内容が重複しているようなので書いていた  
いでいるんですけども、内容が重複しているんじゃなくてテーマが重複しているだけな  
ので、内容が決して一緒なわけではないという話になっているので、NRIについては先ほ  
ど加藤さんがおっしゃったように、NRIの観点からのディスカッションという話になっ  
ているので、そこは必ずしも内容が重複しているわけではないということになっています。

**【加藤】** あしたのMAGの中心議題は何になるんですか。ここまで整理して、サウジアラ  
ビアの会議が今準備できていますという報告以外に、MAGで何か決めることがまだある  
んです。

**【河内】** いや、決めることはあまりないと思うんですけども、多分、Summit of the  
Futureの結果についてどなたから報告されるか分からないですけども、チャングタイは  
単に聴衆として参加するというふうに聞いているので、その報告があるんじゃないかとい  
うのが1つと、それぞれメインセッションはほぼほぼスピーカーとかモデレーターも決ま  
ってきているので、その報告があるんだと思います。

あとは、プログラムとかももうほぼできてきているので、ホームページに載っ

ていますけれども、12月のIGFの最終準備状況の報告が多分ホスト国からあるのではないかと考えています。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で言うと、チャングタイというか、IGFもニューヨークで2つぐらい小さなセッションをやるということでしたよね。

【河内】 2つだったか、サイドイベントはやると。

【加藤】 サイドイベントですね。

【河内】 ホスト国と協力してサイドイベントをやると言っていて、2つだったかどうか、1つだったような、ちょっと忘れちゃいましたけれども、やるとは言っていました。ただ、あれ、岸田さんも言っていましたけれども、Summit of the Future自体はかなり大きな会議というんですか、実際行っていないですけれども、なので、サイドイベントとかそういうところでいろいろやることのほうが、私たちから見ると重要性が高いのかもしれないですよ。その辺はあした報告を聞いて、また御報告したいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。タイミングが非常に悪かったのであれですけれども、あした重要なことがMAGから何か出てきたら、メールでも結構ですので、御報告いただければと思います。

これでMAGとNRIはカバーしたんですが、御質問とかございますか。特にないでしょうか。

それでは、この順番で、その他の会議ということで今、Summit of the Future、GDCという動きですけれども、前村さん、山崎さん、もし何かアップデートいただくことがあればぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【前村】 山崎さん、お願いできますか。

【山崎】 はい。これは誰でも参加できるわけではなくて、岸田首相はもちろん参加なさっていましたけれども、政府の人しか出られない会議ですので、とはいいつつも、全部録画で見れますので、お時間ある方は見ていただくと面白いんじゃないかと思います。全部で4日間あったかな、20日、21日がアクションデイズで、要はサイドイベントの祭典みたいな感じだったと思います。こっちはあまり追えていません。

日曜日22日、昨日、月曜日23日が未来サミット、Summit of the Future本番でした。見ていると、最初に開会式があって、その後、プレナリーになって、プレナリーになると、各国の代表がひたすら意見を述べるという形式で、それで1日9時間やって、昨日もその形式が継続されて、最後に閉会式をやるという形式でした。

一番重要だと私が思ったのは、最初に国連総会議長と事務総長の挨拶の直前だ

ったか直後だったか、どっちか忘れてましたけれども、Summit of the Futureの成果文書がここに出ているPact of the Future（未来のための約束）というものですけれども、これの採択の採決をしたと。それはもちろん圧倒的多数で可決されたんですけれども、その前にロシアをはじめとする一部の国々が動議というかを出してしまっていて、ちゃんと見れていないんですけれども、要は、国連が各国の管轄権に属する事項に介入するなという内容の文言を追加せよというのを出してたんですけれども、その場で、コンゴだったと思いますけれども、この提案について何もしないという動議を出しまして、それが圧倒的多数で可決されました。だから、反対したのは、この項を提案したロシア、北朝鮮、イラン、ニカラグア、あと何か国があったと思いますけれども、そこが反対して、あと数か国は棄権していましたけれども、ほとんどの国の賛成で可決した。つまり、これを却下する提案が圧倒的多数で可決されたということです。

その2つが採決されたということで、これが一番多分、この未来サミットでは重要だったんだろうと思います。

岸田首相がおっしゃった内容については報道もされていますし、首相官邸のサイトに内容が掲載されていますので、そちらを御覧いただくとして、各国首脳がいろいろ言うというのはなかなかすごい機会だなと思いました。

ちょっと順番が前後しちゃいましたが、未来のための約束の文章の組立てですけれども、大きく分けて5つ、サステナブル開発、持続可能な開発、平和と安全保障、3番目の科学、技術、イノベーション、デジタル協力、これがグローバル・デジタル・コンパクトにひもづくものです。ですから、我々はほとんどこれしか、これの中でも黄色でハイライトした辺りしか見ていなかったんで、ほかのところは広過ぎて見えていないんですけれども、ほかのも見ていただくと興味深いんじゃないかと思います。

デジタル技術とか新興技術は重要な役割を果たしていて可能性を提供ということで、それを実現して推進するためにリスクを管理すると。その点でグローバル・デジタル・コンパクトを添付したという立てつけになっています。

これに関連するアクション、我々がやりますというのはこういったことだという事になっています。

グローバル・デジタル・コンパクトも何十ページもある長い文章なんで、端的にというわけにはなかなかいかないんですけれども、ここにあるような5つの目標があるということと、原則がAからIまでありますけれども、こういったものを原則とすると。それに関して、我々はこういうことを約束しますよというのが延々と続くという感じになっています。

最後にフォローアップと評価ということで、ここは結構議論になったと私は思っていて、例えばフォローアップのために2年に1回デジタル協力フォーラムを開催すると

かというのが一番最初の提案にはあったんですけども、そんなのをわざわざつくらなくてもIGFを活用すればいいじゃないかという提案をしている人が結構いました。

我々、技術コミュニティとしては、結構その辺、版が上がるたびに、国連がステークホルダー向けに意見を言う機会があったりなかったりだったんですけども、あった場合は技術コミュニティとして意見を言うというあたりで、このフォローアップですとか、その前にインターネットガバナンスに関するところもありました。この目標3だったかな、3にひもづいていたと思いますけれども、そこに意見を主に差し入れたということです。これは単独の組織でやるのは結構荷が重いというのもありまして、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリスあたりのccTLD、国別ドメイン名です。そこが共同でやり始めたのに乗っからせていただいたということになります。

もう一つ、グローバル・デジタル・コンパクトのほかにも、未来の世代に関する宣言というのがありまして、それも興味深い内容だと思うんですけども、そこまで中身は見れておりません。御興味がある方は、これの一番てっぺんにあるURLからたどっていただけますので、後ほど御覧ください。

私からはそんなところですけども、前村さん、もしくはほかの……。

【前村】 私、前村からお話ししたいと思います。

Pact of the Futureはデジタル協力というところがGDCに絡んでくるんですが、それ以外にも国連安保理の改革が必要だとか、お金をちゃんと準備しないと開発もできないよねとか、全体的に今の国際社会というのか、国際政治というかで問題になっていることが結構総なめに書いてあるような感じがしまして、その中でGDCが占める位置が大きくて、ページ数を数えただけなんですけれども、本文が36、GDCが16ページ、未来の世代に向けた宣言が4ページということで、本文の半分ぐらいあるんですよ。なので、相当、紙幅を費やしているという感じがします。

GDCのほうなんですけども、インターネットガバナンスのところに関しては、毒にはならないなど。薬にもあまりなるような感じがしないなという感じなんですけれども、ただ、そのレベルになっているという評価をするべきかもしれないというふうに思いますね。グローバルでマルチステークホルダーでインターネットの運営というのはやらなきゃいけないんだと、WSISの成果の再確認をしたとか、IGFの指示もこれは明示的に盛り込まれているということはよかったんですけども、一方で、Enhanced Cooperationという玉虫色の言葉が、途中、ディビジョン4ぐらいからたしか入って、それが残っていると。ただこれ、玉虫色だけに何とも言いようはないんですけども、バズのネタとしては存在しているなという感じがしますね。

その辺は無難に終わっているなという感じがするんですけども、むしろ、例えばデジタル空間への包摂というふうな分野、5つの目標のうちの1つでは、情報の真正性

とかトラストと安全性とかいった、今のインターネットを利用する上で非常に大きな懸念を持たれている部分というのに対して、民間のプレーヤーに頑張っただうにかしてよというふうにメッセージがされているので、これは民間プレーヤー側は結構押されている感じがして、そういうことを対応しなきゃ当然困るよねということがよく書き出されているなというところが一番関心としてというのか、印象として残った感じがします。

あと、データガバナンスのところもそうです。この辺もインターネットの使われ方として、データのプライバシーだったり、ガバナンスだったり、越境データフローだったり、データガバナンスのインターオペラビリティであったりということが書き出しされている。国際的なAIのガバナンスというところも、国連総会としての問題意識が書き出されているなという感じがしております。

政治的にこのワーディングがどうだということまで読めていないんですけども、私の読んだ感じではそんな感じに読めました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。タイムリーに前村さん、山崎さん、御披露いただきありがとうございます。皆さん、御質問とかございませんか。

【堀田】 堀田です。

【加藤】 堀田さん、お願いします。

【堀田】 どうも、前村さん、詳しくありがとうございます。

私、全然中身を読めていないんですけども、インターネットという単語の数を調べてみたんですけども、この数十ページの中にインターネットという単語は19個しか入っていないんです。しかも、本文には1個しかなくて、アネックスのGDCに18個で、実はGDCの中にデジタルという単語が151個入っているので、そういうことを見ても、インターネットというものがデジタルというものを下支えする縁の下の力持ちの役割に成り下がったと言っちゃ駄目なんですけれども、役割になっているという認識が数字上でも表れているなと思って、つまり、インターネットを議論するというよりもデジタルを議論するという世界にどんどん変わっていったというのが、去年の京都もそうでしたけれども、数字上もそう感じました。感想です。

【前村】 堀田さん、ありがとうございます。確かにそうですね。NETmundial+10でもインターネット政策とデジタル政策というふうな言い方に全部変えてあるというのは御指摘のとおり傾向があるんだろうなというふうに思いました。

【加藤】 ありがとうございます。

さっき高松さんも手を挙げられていたような。今のは堀田さんのだったですかね。

【堀田】 私の分だと思います。

【加藤】 高松さんの名前が入っていらっしゃるのかな。僕には高松さんと見えたんで、失礼しました。一緒に入っていらっしゃるんですね。

【堀田】 同じ部屋にいます。

【加藤】 そういうことなんですね。失礼しました。

ほかの方、いかがでしょうか。大変スピードが速くて、突然決まってみんな偉い人がしゃべってしまったという段階ですけれども、御質問とかございますか。

もしなければ、1つだけ私からあれですけれども、さっきの Enhanced Cooperationの言葉がまた出てきて、何となく残っているという点ですけれども、これ、皆さんもちろん御存じだと思いますけれども、WSISのチュニス宣言の中で Enhanced Cooperationというのがあるので、ICANNではなくて、もっと国際的な国連のような組織を使って、各国が協力してインターネットガバナンスの制度づくりをしなきゃいけないという議論の根拠が残ったという人がIGFが始まった頃ずっといたんですね。その同じ言葉が出てきたけれども、Enhanced Cooperationが何を意味するんだというのが当時から誰も分からなくて、ある人は、それがあからいろいろな政府レベルの組織をつくる必要があるんだというような議論があったと思うんですけれども、今回そういうようなことが読み取れるようなことってあったんでしょうか。また出てきたには何か背景があると思うんですが、もし前村さん、山崎さん、何か感ずるものがあれば。

【前村】 いや、それはあまり特には出てこなくて、マルチステークホルダーアプローチをしている政府というの、例えば日本もそのうちの大きな1つであって、オーストラリア、アメリカ、カナダ、イギリスといったところというのは入れたがらないんですね。それに対して、マルチステークホルダーに賛成人たちからの押し込みで1つ成功しかかったのは、NETmundial+10を参照するドラフトというのが一瞬あったんですけれども、これは結局却下されました。

それと同じように、アンチマルチステークホルダーな国々からは、当然のことながら、マルチラテラルでとか Enhanced Cooperation と言いたいわけですよ。その1つの微妙なというのか、絶妙な、上手なというのか、紛れ込ませ方が Enhanced Cooperation というふうなことなんじゃないのかなという気がしました。

【加藤】 今見せていただいている項目からすると、WSISやチュニスアジェンダに出てきた Enhanced Cooperation という言葉も当然残っていますよねということですよ。だから、もうそういう議論はなくなってしまったというわけではないということ……。

【前村】 本当にシャトルですよ。in relation to enhanced cooperationですからね。

【加藤】 そのものが何かということも分からないまま、その議論は残っていますよという言い方ですからね。

【前村】 分からないものとの関係で。そうなんですよ。

【加藤】 ありがとうございます。最後まで抵抗した人たちがこういう形でこの言葉を残したということかなというふうに思いますけれども、ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。特にございませんか。

それでは、元のアジェンダに戻っていただいてよろしいでしょうか。その他の会議ということで、今一番大きな会議がニューヨークでのSummit of the Futureだったと思えますが、それ以外に何かございますか。例えばICANNだとか何かでまた新たな動きがあるとか、そういうことはございませんでしょうかね。

では、特になければ次に移らせていただきます。この活発化チームの今後ということで、法人化の議論をしているわけですが、前回の53回目の活発化会議の報告の後、あまり大きな動きがなくて、前回もほぼ文書がまとまって、弁護士による最終案が検討され、今、最終確認中です。その後、一部コメントがあって修正をするというんで最終版が出ました。その後、さらに内部で弁護士さんと御相談をして、ワーディングレベルでコメントをいただいた方がいますが、それについてコメントをいただくことは、ここにいらっしゃる方なんですけれども、いかがでしょうか。名指しするのもあれなんです。

【堀田】 明示的に名指しされました。

【加藤】 すみません。別にこのメンバーですから、名前を隠す必要もないんですけれども、貴重な努力をしていただいたのをぜひ御披露いただいたほうがいいかもしれない。

【堀田】 社内でこれまでは、主に私がほぼ100%、私が高松と相談しながら一緒にやってきたんですけれども、経営レベルでどうかなということで、2週間前に経営レベルで相談し、かつ法務相談をかけましたけれども、書き方の問題は幾つかあるので、それは今ここでは申し上げずに……。

【加藤】 書き方というのは、若干、語句の修正、明確化のようなですね。

【堀田】 そうですね。それで普通に直るだろうというのはあります。それはまた別途。会費制ですよ。社員の集まりのことですけど、会費制ですよ。会費制であることがちょっと分かりにくい。定常業務は会費で賄うということは書かれて……。みんなの話の中ではそうになっていたと思うんですけれども、書かれていないので、それはちゃんと書いたほうがいいでしょうねという話と、そうなった場合に、会費額のイメージが分からない

と、賛同しますと言いつらいと。気持ちはもちろん賛同で、我々も社員になり、かつ理事なり運営委員なりを出すという立場になりたいなどは思っているんですけども、会費が幾らか分からない状態ではちょっと難しいねという話をしていますというところ、この点ですかね、大きいコメントがあったのは。

【加藤】 ありがとうございます。ちょっと補足をしますと、今出ている定款案の中で、経費等は正会員がいろいろな必要経費を支払うという形に書かれているだけで、その金額が幾らかとか具体的なことが、普通定款でこれは幾らですとかというのを書き込まないので、その辺を今後どう決めていくんですかという御指摘で、そこがないと、会員募集とかも難しいんじゃないかという御指摘だと思います。

この辺は発起人になられる方々とかいろいろな方が、自分もぜひそれでやってみようという方々が最初、集まられて決めていかれるのかなというのがこれまでの準備委員会での流れかなというような気もしまして、それを見てもう一度、弁護士さんがそれならここまでぐらい書いておいたらどうかというのを必要であれば書くのかなと。通常、理事会で決めるとか、社員総会でそれを最終的に決めるということになるのかなと思うんですけども、いかがでしょうかね、堀田さん。

【堀田】 おっしゃるとおりかと思います。最初におっしゃったように、定款に会費額を書くわけではないと思うんですけども、会費で運営するんだという気持ちが書き込まれていないと、臨時に基金を集められるというのと並行して書かれているので、買えなかったらどんどん金を集めれば何とかなるというふうにも読めなくはないというところがちょっと気にするところでした。

【加藤】 分かりました。ということで、ワーディングはもう今、最終的にはそういうレベルでほぼ固まっていて、「てにをは」を若干直す御指摘いただいたのを、この準備委員会をお願いしている弁護士さんにももう一回見ていただく段階になっているのかなと思います。

あと、私からどこまで申し上げられるか、内容的に十分いろいろな団体の方、例えばJPNICさんやJAIPAさんやあるかもしれないですけども、そういう方々が今、堀田さんが御指摘のような発起人としてどういうふうに運営していくかという概要の議論を今後さらに詰めていただくのかなと思いますけれども、いかがでしょうか。前村さんとか、今日は立石さんはいいでにならないかな。堀田さん、JPRSさんもあるかと思いますが、木村さんもいらっしゃいますけれども、何かその辺の状況についてもお考えとか御報告していただくことがあればと思いますが。

【前村】 前村ですけども、そうですね。おっしゃったとおりに、堀田さんの御指摘もごもっともで、どういう相場感があるのかとかいうことを、準備委員会の中でも年間予算のイメージを共有したりしてやっているところなんですけれども、その意識合わせみた

いなことを今じわじわとやっているような感じのところがありまして、進捗がこれくらいですみたいなことが言いにくい状態になっていまして、すみません、この程度にさせていただければと思います。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

【木村】 JAIPAの木村ですけれども、私のほうから特にございません。すみません。

【加藤】 分かりました。

もし引き続き、準備委員会の枠の中でというわけにもいかないでしょうけれども、関係する方々で進捗があれば、準備委員会の場、またはこの場で適時御報告いただければと思います。今のところ次の準備委員会の日程は決まっていないので、今回、堀田さんからいただいたコメントをさらに踏まえて、前村さんとか皆さんで具体的な検討をしていただく状況を見て、準備委員会を次開催する必要があるれば開催するという状況になると思います。

以上が法人化の現状でございますが、いかがでしょうか。御質問とか御意見ございますか。特にございませんか。

それでは、次の議題に移らせていただきたいと思います。11月に予定されている国内の事前会合の開催についてですけれども、御覧なつたとおり、先日、セッション提案の募集を山崎さんのほうから出していただきまして、準備委員会で検討した内容で、これは昨年を除く例年のフォーマットに沿ってセッションをぜひ御提案くださいということで、応募期間を来週の月曜日、9月30日までとしています。現在のところまだ正式に出ているものはないと、山崎さん、そういうことですね。

【山崎】 はい。そうなりますね。

【加藤】 方向を打診するとかそういう動きは今のところないですか。

【山崎】 うちのJPNICから2件ほど出てきそうではあります。

【加藤】 ありがとうございます。

【山崎】 加藤さん、上村さん辺りもたしか出していただけると……。

【加藤】 少なくとも上村さんから1件出るというんで、今、最終的な紙を用意していただいまして、今週中にその会議をやる予定ですので、それを踏まえて30日には何か出されるんじゃないかなと思っています。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 これが1件ですね。

【山崎】 あともう一名、提案を希望しているという御連絡がこちら宛てにありまして、ですから、全部で4つは何とか出るんじゃないかと思えますけれども。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 まだまだ少ないというか、4つだと……。

【加藤】 いや、恐らくJAIPAさんもあると思うので。

【山崎】 木村さん、もし御存じであれば、例えば立石さんとか、JAIPAのどちらかの部会が提案を予定しているとか、御存じでしたら共有いただけますか。

【木村】 いや、何も聞いていないです。すみません。

【山崎】 分かりました。

【木村】 あるかもしれませんが。

【山崎】 じゃあ、ちょっと立石さんあたりをつつついて。

【加藤】 そうですね。立石さん、ちょっと別件で何かすごく忙しいというのを聞いたことがあるので、立石さんに言えば状況が分かると思います。

【山崎】 ほかでも……。

【加藤】 4件ぐらいプラス二、三件というイメージですかね。

【山崎】 はい。今日御出席の方で、何かセッションを提案したいという方がもしいらっしやったら、今共有していただければと思うんですけれども。

【加藤】 そうですね。いかがでしょうか、皆さん。勝手な名指しで言うと、今出ていらっしやる方だと、浜田さんも出ていらっしやる。最近、浜田さんのほうから特にございませんか。

【浜田】 どうもお久しぶりです。

【加藤】 お久しぶりです。

【浜田】 実は前期、自分の授業がこの時間帯にありまして、4月以降ずっと出られていなかったんです。今やはり個人的に非常に時間の取れない状況が続いていまして、提案というのは難しいです。申し訳ありません。

【加藤】 いやいや、とんでもないです。すみません、突然振っちゃいまして。

それでは、引き続き、もう一人、1件という方は山崎さんからフォローしていただいて、CFIECの1件は私ども、河内さんもフォローされると思いますし、JPNICから2件ぐらいお考えなのも来週月曜日を目指してやっていただくということで、JAIPAさん、木村さんからもぜひ立石さんとかに聞いていただければと思いますけれども、立石さんは前、ぜひ出したいということ、この前回の会議でもおっしゃっていたと思いますので、よろしくをお願いします。

【木村】 聞いておきます。

【加藤】 セッション提案はそういうことで、今のところ、選考委員を若干名募集ということについては、誰が選考委員になるとはまだ手を挙げていらっしゃらないんですが、もともとの準備委員会4名プラス堀田さん、高松さんが時間があればお手伝いいただくというチームでやっていますので、もしなければそのチームでまずスタートすることになると思います。

それから、企画セッションについてというのも、今回の応募の数によって決めなきゃいけないことが、応募の方々の都合のよい日程と、もし選定で最終的に決定した場合、日程の調整をして、セッションがこの方々にやっていただくということが決まれば、今11月の5、6、7、8の4日のうち恐らく2日程度ということになれば、その穴を埋めた上で、それぞれのセッションプラス最初の御挨拶とか、今の法人化の状況のもしあれば報告をすとか、そういうような追加的なセッションといいますか、企画をするということになると思います。まだ決まっていませんが、来週月曜日の後、早々に次の準備委員会を開催するということになると思います。

私の理解ではその程度ですが、また同じメンバーで恐縮ですけれども、前村さん、山崎さん、いかがですか。準備委員会という立場からも含めて、コメントなり追加いただくことがあればお願いしたいと思います。

【山崎】 山崎ですけれども、企画セッションですけれども、提案があればそちらを優先しますけれども、もしなければ、先ほど出たWSISですとかGDCとか、その辺りを企画セッションにできればと思っています。もちろんそれに関する提案が出てくれば、そちらでカバーしていただくということにはなるかと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。

【山崎】 これはジャストアイデアで、まだ皆さんで練ったという状況じゃないんですけれども、それについてカバーするセッションは、1つは必要かなと考えました。

【加藤】 ありがとうございます。それがあると、そこに来れば世界の動きが分かるという感じで、とても引き締まる会合になるのかなと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ほかいかがでしょうか。前村さんからいかがですか。

【山崎】 もうそろそろ落ちたんじゃないですか。

【加藤】 さっきそういえばチャットであれだったかな。高松さんだったかな、あれは。

【山崎】 いや、高松さんの後に前村だったと。

【加藤】 前村さんも、そうですか。分かりました。

それでは、来週の月曜日以降、準備委員会としても早々にアクションを行うということで、予定どおりのスケジュールで進めていただきたいというふうに思います。

それでは、以上で今日のアジェンダはほぼカバーしたと思いますが、何か追加でお話しいただくこと、御質問いただくことはございませんでしょうか。特にございませんか。

もしなければ、次回のこの活発化チームの会合の開催日なんですが、実は今日から3週間後ですと、今日は火曜日なんであれですけれども、10月15日の火曜日、月曜日がまたスポーツの日でお休みなんですが、3週間後の15日火曜日にするか、元の4週間のスパンに戻って10月21日の月曜日にするかですけれども、皆さん、いかがでしょうか。

1つ、山崎さんから御指摘があったんですが、今の11月5日頃から会議をやるとすると、その前に2回活発化会議をやらなくてもいいのかということがあったんですけれども、結構スケジュール的に厳しいんですね、2回やるとすると。

【山崎】 この会議を2回やると、結構、皆さんの負担になるかもしれないです。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 複数やるとしたら、プログラム委員会のほうで吸収して、チーム全体の会議としては1回で済ますというのもありかとは思いますが。

【加藤】 そうですね。もし1回で済ますということでお許しいただけるなら、多分、実際の会議にもそれなりに近いということで、週としては4週間後になりますけれども、10月21日月曜日、夕方5時定例でいかがでしょうか。ここにいらっしゃる方々で御都合悪いか、その時期は何か問題だという方はいらっしゃいますでしょうか。

恐らく準備委員会のほうで進んでいて、ただ、どうしても決めなきゃいけないということがあればメールベースで御相談するとして、もし10月21日月曜日、夕方が御都合が特に悪いか、何かとバッティングするということになれば、10月21日でいかがでしょうか。

【木村】 了解しました。

【加藤】 ありがとうございます。それでは、取りあえず今日の決定として、10月21日17時からということで決めさせていただきます。

繰り返しになりますが、今日まだ言い残したこととか何かございますでしょうか。特にございませんか。

それでは、今日も長い間というか、1時間でちょうど終わりましたけれども、ありがとうございます。ぜひ11月の日本IGFは盛り上がるように、ぜひここにいらっしゃる方々、御自分も含めてセッション提案、もう一度お考えいただいて、来週月曜日までにこんなことをやるという概要だけでも結構ですので、ぜひ御提案いただければと思います。

では、どうもありがとうございました。これでお開きにさせていただきます。ありがとうございました。